



サクラ
【上島町花】

事業概要

上島架橋事業は、岩城島・生名島・佐島・弓削島を3橋(岩城橋・生名橋・弓削大橋)で結び、全国でもまれな離島同士の合併により誕生した上島町の生活基盤の強化や産業の活性化を図るとともに、新町の一体化や効率化などの新しい町づくりを支援するものです。

生名島と佐島を結ぶ生名橋は、上島架橋のうち2橋目に整備するもので、平成16年度に事業化、平成18年3月に着工し、平成23年2月6日に完成・供用することとなりました。

(1橋目の弓削大橋(橋長567m)は平成8年3月に供用を開始)

事業経緯

- 昭和44年度 : 上島諸島総合開発協議会結成
- 昭和48年度 : 「越智郡島しょ部道路整備計画及び橋梁予備計画書」作成(愛媛県)
- 昭和55～63年度 : 弓削大橋(弓削島～佐島)事業化のための調査(愛媛県)
- 平成元年 : 弓削大橋が町道事業として補助事業採択(弓削町)
- 平成2年 : 弓削町から愛媛県へ工事委託
- 平成8年3月 : 弓削大橋完成、供用開始
<総事業費約4.8億円、工区延長980m(主橋梁325m、取付橋梁242m)>
- 平成8年4月 : 弓削大橋を含む岩城島～生名島～佐島～弓削島間が、
岩城弓削線として県道認定
- 平成8年5月 : 「上島諸島架橋促進期成同盟会」設立(構成:弓削町、生名村、岩城村)
- 平成9～14年度 : 「上島諸島道路計画調査」に着手(愛媛県)
- 平成15年4月 : 生名橋架橋前後の島内道路0.7km補助事業採択
- 平成16年4月 : 生名橋工区1.2km補助事業採択(生名橋本体採択)
- 平成16年10月 : 町村合併 新町「上島町」誕生
- 平成18年3月 : 生名橋起工式(3月23日) 仮栈橋、仮締切工事に着手
- 平成19年7月 : 生名橋本体工事着手
- 平成20年4月 : 基礎杭完了
- 平成21年3月 : 橋脚工完了
- 平成22年4月 : 主塔工・PC(コンクリート)桁張出し架設完了
- 平成22年5月 : 接合桁架設
- 平成22年8月 : 斜材架設完了
- 平成22年9月1日 : 鋼桁架設完了(閉合)
- 平成22年9月8日 : 閉合式
- 平成23年1月末 : 橋面工事完了
- 平成23年2月6日 : 生名橋本体・取付道路部 完成供用・開通式
<総事業費約7.7億円、工区延長1.9km(橋梁515m)>

お問い合わせ先

愛媛県東予地方局今治土木事務所

愛媛県今治市旭町一丁目4-9

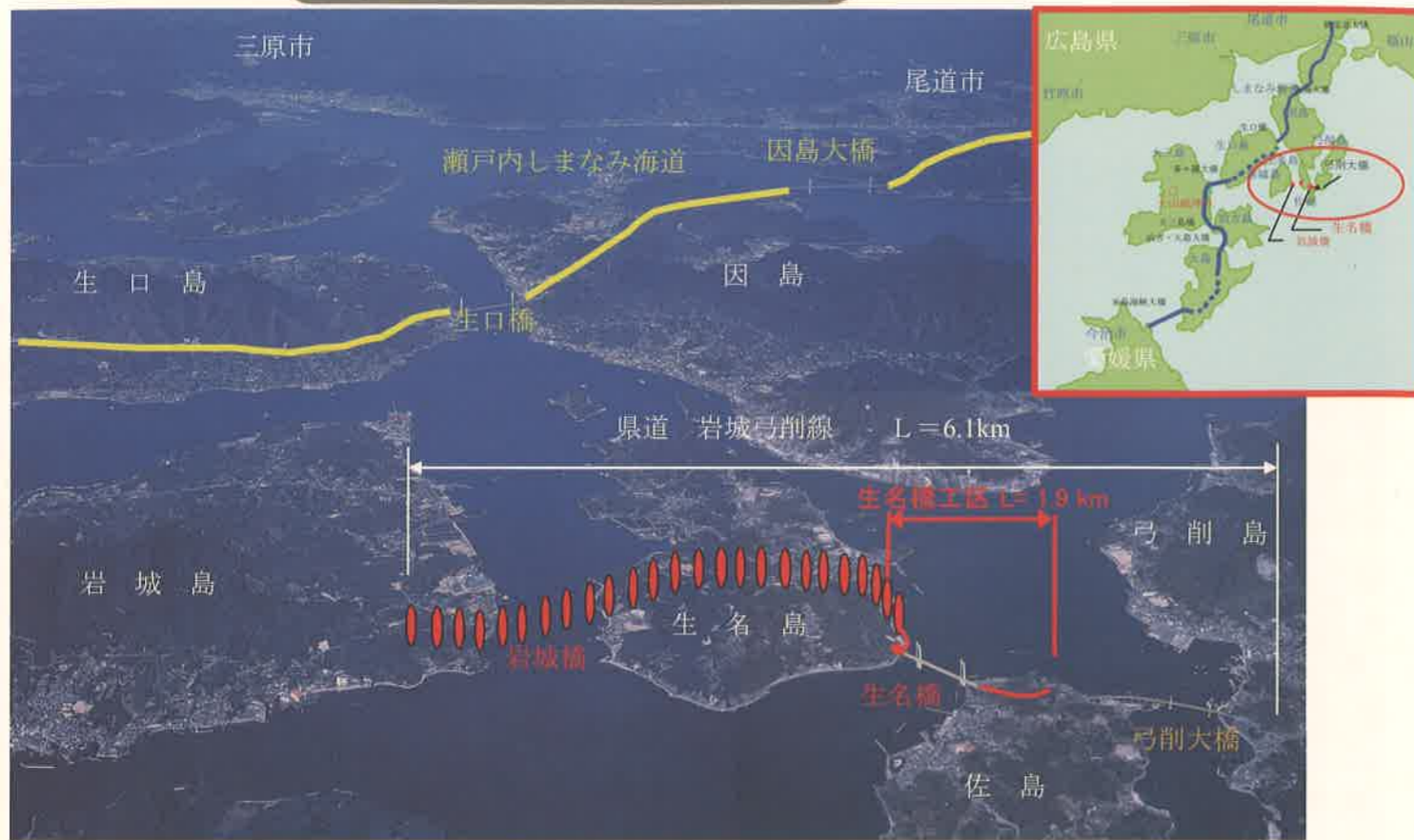
TEL 0898-23-2500(代)

上島架橋整備事業 生名橋

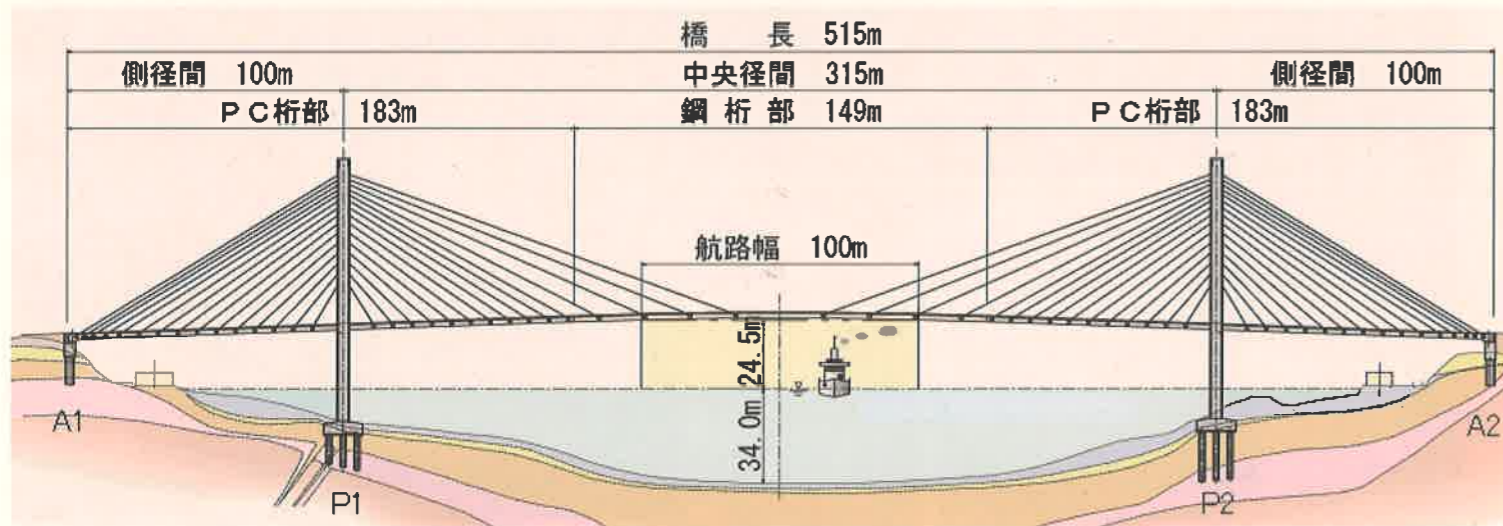


平成23年2月 愛媛県

上島架橋計画概要図



生名橋側面図



工事経過



生名橋の諸元

生名橋の諸元

架設場所	愛媛県越智郡上島町生名～弓削佐島
橋長	L=515.0m
幅員	W=4.0(7.5)m 総幅員7.5m, 車道部5.0m, 歩道部2.5m
径間割	100.0m+315.0m+100.0m
脚塔高さ・形式	RC橋脚(P1側32.0m, P2側31.0m), RC主塔62.6m
橋梁形式	3径間連続鋼・コンクリート混合斜張橋

日本の鋼・コンクリート混合斜張橋

NO	橋梁名	橋長 (m)	有効幅員 (m)	主塔高 (m)	完成年度
1	多々羅大橋	1,480	30.1	220.0	H11年
2	生口橋	790	20.0	122.8	H3年
3	生名橋	515	7.5	94.6	H22年

生名橋の特徴

■1.5車線の道路整備の導入

生名橋は、愛媛県が取り組みを進めている1.5車線の道路整備手法を導入しました。当面の交通量に見合った1車線歩道付きの橋梁として建設コストを軽減し、早期の完成・供用を目指しました。

1車線では、普通車同士の離合は可能ですが、大型車同士の離合が難しいため、橋の中央部に待避所を設け、離合に備えています。

■鋼・コンクリート混合斜張橋の採用

斜張橋は、主塔から斜めに張りわたしたケーブルで主桁を吊った構造で、比較的大きな支間の橋梁に適しており、合理的な張り出し架設が可能で桁高を低くできる特徴があります。生名橋は、中央径間315mの中央部149mを重量の軽い鋼桁、残る部分と側径間366mをPC桁とした混合斜張橋です。中央径間を長くすることにより、水深の浅いところに主塔が配置でき、建設コストが軽減できます。

中央径間を混合構造とした橋梁形式は数が少なく、両方の桁を斜材で吊った斜張橋は、生名橋が我が国で初めてとなります。

■ライフサイクルコストの低減

海上橋であるため、鋼桁外面の防食には、100年以上の耐久性が期待されるアルミニウム・マグネシウム合金溶射を採用しました。初期建設費は高くなりますが、将来の塗替え費用が節減でき、トータルコストの低減を図っています。また、主塔も塗装鉄筋を用いたコンクリート構造として将来の維持管理費用の低減を図っています。

